



視点 21

『私と一陽会』70回展に寄せて

一陽会 彫刻部 運営委員・顧問
六崎 敏光

一陽会との「であい」は 昭和37年(8回展)に山崎 猛先生(1回~43回)から誘われての出品であった。この頃は多くの有望な人たちが新天地を求めて集まり、誘い合って仲間を増やし団体としての成長をめざしていた。「成人式」となる記念パーティーでは、鈴木信太郎、高岡徳太郎、野間仁根、植木 力、らの創立会員を囲み大いに盛りあがった。体制が整うと競い合う雰囲気が高まり会の質も一段と向上したのである。

植木 力先生(1回~48回)は「一陽会の彫刻が自由でいいよ」と励ましていただき、頑張れる原動力になっていた。知名度のある熟した会とはちがい、気兼ねなく、安心して、長く出品



できたことが何よりだった。

回を重ねると出品者が多くなり作品も大型化して、新たな悩みが出てきた。旧都美術館から新都美館に移ったとき、同期に開催の新制作協会に第2彫刻室を分けてもらえないか交渉したが実現できなかった。そのかわり野外が全て開放され、大作を求める者には憧れの空間となり、彫刻部に活性化が生まれ野外が注目されるようになった。私もその一人で、野外賞を受けたことが切っ掛けで他の野外コンクールに10年ほど出品を続けた。野外での経験は、新しいことに挑戦する勇気を学んだのである。

中村 輝先生(1回~38回)からは「変わろう



美ヶ原高原美術館
野外会場



とする勇気が大切で、恐れずに取り組むことだ」と言われていた。どうすべきかを考えて、学生時代に夏山登山で感動したことを思いおこした。自然界が造り出す造形の見事さと向き合えば、変わろうとする気持ちを持つことができるのではないか。このことが、私の彫刻フォルムの転換点となった。一陽会は開催時期が秋に恵まれ、彫刻部のある団体として活動してきたが、会場には彫刻室がなく絵画の中の彫刻は絵画鑑賞の妨げになっていた。絵を見ながら後ろへ下がると彫刻にぶつかり倒されることが何度かあった。53回展に国立新美術館に移り彫刻室が与えられたときは、ようやく他の団体に近づいた喜びで一杯だった。50年以上の間、絵画部

からは何も苦情や文句もなく彫刻部を守ってくれたことに、深い感謝と敬意を表したい。発展してきた彫刻部は、植木先生が亡くなられて20年となり、構成員と一般出品者の減少傾向が今後の課題となっている。

絵画と彫刻の割合は 6:1で 20支部のうち彫刻はその半分からの出品である。全ての支部に彫刻出品者を実現させるには、絵画部の力を借りなければならない。現状は〇〇支部7、〇〇一陽会5、〇〇グループ8、計20である。視野を広げるにはまず各支部の構成員を増やし、それから支部の数を一つでも増やすことができればと思う。最後に100周年の輝く姿を念じてやまない。

鈴木信太郎賞

絵画部会員 長谷川清晴



画家は、大体25、6歳には、一応、その技巧はできあがっているようです。しかしそこからの精進が大切で、努力を惜まず、真摯に作品と向き合い自分の全精力を注ぐことで、よき作品となるのではと、私はそんな思いを持って絵

を描いています。私の作品のテーマは「時」であり、形や作風が変わっても生涯のテーマとしています。見る人に時間を感じさせる作品を制作しております。好奇心の強い私は、画風を変えることで、自分を発展させていくのが目的であって成功したときの喜びは大きい興味の向いた先を追いかけることが、私の創作の原動力になっています。しかし私はそういう一時的なことはあまり意味が無いと思っています。すこし変わったことはできても、自分がものを見る力が自分の中に審美眼を育て見方や深さについて確信や決断を持つことは作家として必要なことでしょうね。しかも油断するとすぐにその目が曇り、自己満足に終わらないように精進いたします。

野間仁根賞

絵画部会員 古田恵子



この作品には、背景に降りつむ雪に落とす人影に星の群れ、曲線を描いて流れる川べりに秋草。自転車の幼い少年の手には春の草花、手前の少年の手にはひと夏に命を燃やす螢。図らずも四季が一枚の画に表れてしまいました。亡

き人へ鎮魂曲を捧げ、生きる人は生命を慈しみ、生きることを謳歌できるようにと願いを込めて描いたものです。私たちは、日に何万回も思考して、その世界の中で囚われたり、昨日のことや雑多なこと、間違った認識も含めて、ざわついたり笑ったり泣いたりします。その思考を一時リセットしたとしても、また過去の思考がむくむくと生えてきて種を落すのです。そしてまた目の前のことを、子どものようにありのままに見つめようと努めます。さまざまな事情を抱え「生きるということはなにか。」という問いが浮上することもあるかもしれませんが、私の中では「生きていれば美しい光景に、想像をはるかに超える自然に出会うこともある。」これに尽きます。多くの皆さんに支えられて生きています。

高岡徳太郎賞

絵画部会員 安藤義孝



生命の神秘に心を動かされ、イメージとしての体内宇宙を描き続けてきました。初期の頃とは作品のスタイルもずいぶん変化してきましたが、生命への興味は増すばかりで、たぶん今後も同じテーマを追い続けるような気がしています。

今回、30年という節目の年に受賞できたことを大変嬉しく思いますし、ここまでを振り返ってみる良い機会を与えられたような気がします。

初出品の第40回記念集を初めて手にした時、一陽会の設立宣言文…尖鋭なる未完成…を読んだ時の痺れるような思いが蘇ってきます。後にはチャレンジする決断をさせてくれる魔法の言葉になりました。新しく何かを始める時、迷い悩みつまずいた時には、これからも利用させてもらおうと思います。また、人がやらない独自の方法にこだわり続けたいとの思いを柱として、これからも取り組んでいきたいと思っています。

植木力賞

彫刻部委員 三井正人



この度は、彫刻部・植木力賞を受賞させていただき、心から感謝申し上げます。受賞には多くの方々のご理解があつてのことであり、そのお力添えに深く感謝申し上げます。

「彫刻とはどういうものか」と言うのだろう」と数十年来考えてきましたが、近頃は「空間をどうとらえるか」ということに執着しています。この度の作品は一見抽象作品のようにも見えますし、壁にドアがある建築模型のようにも見えるかもしれません。2次元平面の壁がドアを開けることで奥行きのある3次元の空間となり、ドアが重なり合うことでまた異なる空間が現れます。表と裏、左右、形と空間が織りなす意味、時間、私の中の既成の「彫刻」と言う概念をズラす。そんなことを「木」を素材として形にしていきながら、これからも受賞に甘んじることなく、さらなる挑戦を続けていく所存です。皆様のご指導を宜しくお願い致します。

武田厚賞

絵画部会員 藤田裕子



中学1年の頃よりだまし絵に興味を持ち始める。

学生時代、トロンプ＝ルイユの世界であるルネ・マグリット、サルバドール・ダリに魅了された。

そんな中、自分にとっての油絵、なぜ描くのか、何を描くのか、に悩

んだ。北山泰斗に師事。マグリットを超えろ!の言葉を胸に、自分にとっての絵画と向き合う事になった。食べられないたまごシリーズを描き出し、早いもので27年が経った。若い頃は単純に「食べたいけど食べられないたまご」というストレスをどう表現しようか、と石のたまごや目玉焼きといった姿にしてキャンパスにぶつけていた。

そんな自分も、社会人になるとともに歳を重ね、同時に社会の波に揉まれ、描く中にも様々な思いが錯綜しました。額縁に閉じ込められたような自分の人生から、飛び出してみたい!が、チャレンジする勇気のない自分。その不甲斐ない自分の姿や思い、そして昨今世界中の時事の渦に巻き込まれていく人々、そんな姿を今後も表現していきたいと思う。

一陽賞・会友推挙

絵画部 藤本えつ子



6月末、晴れた朝の蓮池は、蕾から大輪の花まで、各段階の花がそこかしこに点在し、可憐なピンクの花びらがひときわ目を引いた。しかし、私が圧倒されたのは、何といても葉であった。夏の強い日差しを浴びて、葉は競って空に向かって大振りの葉面を柔らかく

広げ、重なり合った下方の葉には濃い青緑色の影が落ちている。その一枚一枚はそれぞれ異なり、特有の色、形、姿勢を有している。しばらく見ているうちに、表情まであるように思えて来たから不思議だ。葉には、華やかな緑色、透き通るような黄緑色、葉の裏側の濃い緑色、影になった部分のエメラルドグリーン、光が当たらない下の方の青味がかつた濃緑色、と実に様々な色合いがある。目をこらしてもっとよく見てみると、緑色ばかりではなく、オレンジ、赤、ピンク、紫、と多様な色調を帯びていることに気が付いた。その色を誇張して描いてみた。植物は互いにコミュニケーションを取り合っていることが最近の研究でわかってきたらしい。化学物質を合成して放出し、情報伝達をしているという。蓮池の縁に立つと、微風にかすかに揺れる蓮達のさざめくようなおしゃべりが聞こえてくる気がする。

青麦賞・会友推挙

絵画部 長島文子



約4億年前に絶滅したといわれていたシーラカンスは、姿を変えずに現在も「生きた化石」として棲息しています。

2020年から“時空を超えて”をメインテーマとして、そんな奇跡の生き物-シーラカンスを描いて

います。今回はサブタイトルを“望郷”としました。最近の世界情勢は、各地に紛争が勃発したり、又地震などの自然災害で多くの人々が難民となり、知らない土地で不便な生活をしています。戻りたくても戻れない悲しみ…

我が身を振り返れば、故郷を離れてから40年余り経ちます。もう帰る家もありませんが、自分の原風景はやはり生まれ育った故郷だと思えます。

そんな望郷の想いを込めてこの作品を描きました。

青麦賞

彫刻部 林徳和



「人が生きていることを感じられる瞬間」をテーマに木彫での制作をしています。今回の作品は年老いた鮪の漁師が海の上で雲の隙間から光が漏れている光景を見ている瞬間を彫りました。

漁師は魚を釣らないと生きてはいけません。日々釣り針を磨き、帆を直し、船を漕ぎます。努力はすぐには生活に結びつきません。徐々に体力も衰え生活も苦しくなります。しかしそれこそが、漁師の生業であり生き方なのだと思います。魚を釣り上げた時は、ただの満足感では言い表せないと聞きました。自らが生きていることを感じられる最大の瞬間なのだと思います。

「人には自分が生きていると感じられる瞬間」があります。木の塊の中から、形が出てくる時、私も「生きている」と感じるようになりました。この作品は年を重ね衰えていく筋肉とその体軀が今回こだわって彫ったところです。

瑞繪賞

絵画部会員 木下由美子



50号以上の絵は油彩で描き、水彩はスケッチやエスキースでしたが、13年前水彩で大きな絵も描いてみたらと、額縁を譲り受け、水彩紙をロールで買い水張りして、昔、油彩でよく描いたスペイン人形を卓上に並べ、軽やかな楽しい気分で描き上げて、中央の水彩展へ出品、水彩でも描いてみたいと思いました。

一陽展に出品してみましたら、内容の濃い大きい作品が多く、私もと100号2枚つなげて、色彩豊かに響き合い音楽的空間を感じる絵を目標に挑戦しましたが、画面を埋めるのに精一杯、思うように行きませんでした。でも達成感がありました。油彩、水彩、アクリルで自由に描きながら、水彩の奥深さを探りながら、描いて行きたいと思えます。

スカラベ賞

絵画部委員 柴山桂子



69回展の審査会場でスカラベ賞と告げられた時 心の底からびっくりして私にいたいてよいのかしら? と思う気持ちと やっと 終わった一区切りとほっとした気持ちが溢れました。事務所のお手伝いさせて頂き8年目おかげさまで事務的なスキルも上がり 違う頭の使い方ができたと 感謝しております。

スカラベとは太陽神で回復、修復、継続の意味をもつそう。

一陽会でかけていただいた 言葉は 私の宝物な一瞬にもないカラっとした作品それが魅力だ!誰も使わない美しい色合いと感性がいい!作品ももっともっと描いて!

いいもの持ってるんだから!その数々の言葉が いつも支えてくれました。

スカラベにあやかって 心と頭を 絵描きにシフトチェンジして作家活動に邁進したいと思います。

スカラベ賞

彫刻部運営委員 神山茂樹



アフリカの彫刻家ウスマンソーとメキシコの彫刻家フランシスコスニガの作品に出会い感銘を受けました。

ウスマンソーはマサイやヌバ族の戦士や日常生活を、スニガはメキシコの原住民インディオの日常生活をテーマとして扱っていました。特にスニガの量感溢れる女性像には、自分の造形上の嗜好と合致していると思っています。

内から出る力とずっしりとした実在感を希求し今のフォルムがマンネリとみられぬ様、個性となる様に制作しています。

今回は6月に体調を崩した上に夏の猛暑で、涼しい早朝からの2~3時間しか仕事が出来ず難儀しましたが、初出品から休まずに搬入する事が出来ました。ちなみに題名の「ナータ」は守護者という意味です。



スカラベとは……

別名タマオシコガネ、コガネ虫科の甲虫の一種。ファーブルの『昆虫記』で有名。この虫を意味する語が生成の意味にも通じ、天地創造の神、また球状の玉を転がす習性から古代エジプトでは太陽の神の象徴として神聖視され、これを型どって護符した。護符は貴石や陶器などで作られ、装飾品や印章としても用いられた。ミイラの心臓の上に置かれたものは、復活を祈願するという意味をもつ。(広辞苑、および百科事典マイペディアより抜粋)

美術団体一陽会を創立した際、シンボルマークとしてスカラベを冠したことは、大先輩の諸先生たちの慧眼にほかならない。一時はこのスカラベを軽視するかなような向きもあったが、反省と自戒を込めて第59回展で、復活したものである。

会員賞

絵画部 古曾成樹



この度は 会員賞ありがとうございます。今回の作品は2000年頃の発案で、全20ピースの中の最後の3ピースです。場所は自宅の裏山で毎年竹の子を掘ります。これまでの作品は自宅周りの山林です。

自分が絵を描くに当たり、何を主題にするかずっと考えていますが、例えば奇抜なアイデアで人目を引くもの、時代、現代を描く、価値観、美学、哲学、理想、内面、感動したこと、など有りますが、想いつきや想い込みではなく、単なる想いと言う人間にとって最後に大切な物を見つけて行きたい。

会員賞

絵画部 白川幸子



10月。ゲームがクリアできたときの心情だ。“絵のこと”は白紙にするのだ。来春にむけて庭仕事に打ち込む。シャベルにググッと力を込める。トカゲの子どもがあわてている。アゲハの幼虫はクルリと丸くなり、動かない。

名前がわからない黄色の小さな花たちが、風に大きくゆれる。椅子に座って上を見ると雲たちが美しい。自由だ。ゆったりと過ごすのだ。

植木鉢の内で丸くなっていた白黒の子猫はもう2才になった。ギュギュっとだきしめたり、おいかけっこをしたりする。庭にある様々な命、形、色、香…。いとおいしい。

そして、構図の方で近づいて来るのを待つ。

会員賞

絵画部 菅原礼子



15世紀西インドでヒンドゥー教国の王が、水不足解消のため地下に井戸の建設を始めた。

その最中イスラム教国の王がこの地を制圧し王を殺し、残された美しい王妃に求婚する。

王妃は井戸の完成を条件に承諾した。

しかし完成後、前夫の後を追ひ井戸に身を投げ自ら命を絶ってしまう。

ヒンドゥー様式・ジャイナ様式・イスラム様式が混在する他に類を見ないスタイルの美しい建築に、このような悲しい伝説があることに思いを馳せながら描き進めていった。

絵の中央の白いハトを王妃、それを見守るハトが先王、そんな物語を作ってみた。

一陽会神奈川支部の事務局をお手伝いさせて頂き日々精進です。

会員賞

絵画部 三村恵理



今回のモチーフは、イタリアのペルージャの街です。ここ十数年、長期休暇が取れるとイタリアへ行き取材やスケッチをしていたのですが、コロナ禍でそれが叶わず、過去に撮りためた写真や資料の中に見つけたのが、簡単なスケッチでした。その、彩色もそここのスケッチは、決して大きな作品にしようと思って描いたものではありませんでした。ここは、ペルージャでもたいへん有名な場所で、観光パンフレットやその他で既に紹介され尽くした感のある場所だったからです。でも、私がこの風景「眺め」に心惹かれたのは事実です。他で紹介されているのとは違う表現で、色彩で、作品にできないものだろうか? そこにある建物や物質を描くのではなく、私の目に映り感じ取ったものを描けないものかと。まだ、気負いのみで作品は本人の目指すところから乖離していますが、今回、このような賞をいただいたことを励みに、もっともっと、良い作品が描けるように、頑張ります。

会員賞

彫刻部 衛守和佳子



一陽会の大きな会場での重圧を感じながら展示に挑戦し始めて17年も経っていました。

学生の時は木彫を専攻し、その後は陶芸、ガラス、鋳造などに興味を持って制作を続けています。今は陶(粘土で制作し焼成して仕

上げる)の表現が面白くなってきました。

数年前から友人たちと登り窯での作品焼成を始めています。年に1~2回しか焼くことが出来ない事もあり、思い道理の焼き上がりには、更なる時間と経験が必要となると思います。しかし、粘土の種類や焼成の温度の工夫、薪にする木の種類・窯詰め・薪の投入の仕方など考える事が多くあり、毎回希望通りに仕上がりますが、電気窯には無いワクワクを感じています。

今までの私のテーマは「生きるもの」でしたが、最近はずっと原始的な月・太陽・大地などの自然に心が惹かれています。棚田を借りてお米を作り始めたからでしょうか?私は体験型の人間のようなのです。

会友賞

絵画部 赤木秀明



2023年。様々な環境が変化していく1年間。時の流れと共に移り変わる様々な現代人のターニングポイントを作者の視点から描いた作品である。

先の見えない目的地に向けて、それぞれが走り出したその瞬間、

この世界の現代人は、「はじまりと終わり」・「繁栄と崩壊」・「陰と陽」。2つに別れていく世界の中で何を考えているのだろうか。この道の先に待っているのは希望か絶望か分からないが、それでも進んでいく様子を群像に込めて描いた。

会友賞

絵画部 遠藤優綾



この度、第69回一陽展において会友賞を頂きまして誠にありがとうございます。受賞できたのは、未熟な私に様々なアドバイスを下さった諸先生方のお陰と考えます。特に吉田光雄先生には初出品時から長く支えて頂きました。

しばしば全国最高気温に迫る真夏の甲府盆地の屋外で絵を描く私に対し、毎年長時間に渡り御指導いただいたことには御礼の申し上げようもありません。

ずっと百合の花を描いています。繊細でありながら豪華、かつどこか人工めいたカサブランカの「白」色に惹かれ、キャンパスに映し出したいと願いながら上手くいった例がありません。いつか虚構の美しさで人の心を震わせられるよう、これからも努力して参ります。今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

会友賞

絵画部 岡恵美子



「ロボット恐竜」をモチーフにして今迫り来る不安や恐怖をテーマに描いています。

「ロボット恐竜」は子供のおもちゃですが、絵の中では身の周りの苦しい状況や、自動化で人を脅かすAIの象徴として描いてい

ます。

コロナが終わりに近づいたら、世界各地で紛争が始まっています。苦しい時代を共に生きればお互いを思いやる時が訪れると信じていたのに何とということでしょう。とてつもない恐怖が間近に迫っていると感じざるを得ません。

ただ幸いなことに、私にとっては絵を描くことができます。これは希望です。絵は同時に色々な不条理に立ち向かう力も与えてくれます。私自身は拙い小さな弱い存在ですが、いつも心を込めて誠実に絵に向かうことで、現状に甘んずるより、求める理想に近づけるかもしれないと信じています。同時に辛い現実生きる子供達も、本当に好きなことを追い求めて強く生きてほしいと願っています。

会友賞

絵画部 喜多誉子



行ってきます、と言ったはずなのにドアの音がしない。どうしたのかと見に行くと、娘は玄関先で荷物を持ったまま立ち尽くしている。「学校行かなあかんけど行かれへん。足が動いてくれへんの。。。」さめざめと泣きだす娘。

そうなん?いかれへんの? またしんどの? そんなに泣いたらせつかくのアイプチ取れちゃうよ?セッした前髪は斜めを向いてマスクの中も鼻水でぐちゃぐちゃ。もう学校休む?え? 行かなあかん? じゃあ車で送ってあげようか? 今から行ってダッシュで戻ればパートには間に合うか。頭の中で計算する。今日はママ仕事やから帰ってきたら話聞くでいいかな。でもそれって何時になるのかな。今から学校行って朝練して授業受けて放課後も部活でその後は塾。一日中びっちり!帰宅後も大量の宿題に追われてのんびりする時間なんてない。やっぱり聞かないとダメかな。泣きたいのはこっちやねんけど。余裕もゆとりもないまいにち。それでも。

会友賞

彫刻部 平野正春



私は石粉粘土という加工粘土を使って人物を作っています。その粘土と出会った時よりも粘土の質は向上していますが、出会った当時から石粉粘土の手触りや仕上がった時の質感がとても好きで、20年以上愛用しています。

さて、私はこの粘土の特性を生かしつつ、静かに佇みながらもその周囲には凜とした空気を漂わせる、そんな作品を作りたいと考え制作にあっています。今回出品した作品もそれらを意識しながら制作しました。

毎回出品すると感じることは、広い空間の展示会場に陳列され、照明に照らされた自分の作品を改めて見てみると、満足する部分はもちろんありますが、こうしたほうがもっと良くなるだろうという部分が客観的に見えてくるということです。さらには先輩諸氏からの言葉も素直に心に響き、ますます制作への意欲が高まっていくのを感じます。これからも日々精進していきたいと思っています。



会員推挙 絵画部 秋本美智子



コロナ禍や世界情勢が不穏な何か心もとないこの何年間でした。そんな時、建設現場に置かれていた重機に出会いました。その揺るぎない存在感に圧倒され、鉄の錆びた所々にも風雪に耐え抜いた証しのような強さを感じ、まるで生きていくかのように見えました。

これを描こうと決め、現場の人をお願いして何度も足を運びました。最初はげんそうに見ていた人達もその内、声をかけてくれるようになりました。その人達の顔や声を思い出しながら描き進め、私は重機に力をもらいました。これからも表面を写しとるだけでなく、見えない内面を、問いかけるものを求めながら、作品作りをして行きたいと思っています。

会員推挙 絵画部 今浦 稔



中学生の頃、美術で「シュルレアリスムの絵を描く」という授業があり、マグリットのピレネーの城を教科書で見て、感動したことを覚えています。重そうな岩が空中に浮いている様子が不思議でした。「暗い窓の中の様子はどうなっているだろう。どんな人がいて、何をしているのだろうか。」と、色々な想像をめぐらせて楽しみました。そのときの絵画に対する感動が、制作活動の原点となっています。

現在は、月や太陽等の天体と光をメインモチーフにして描いています。柔らかい光やダイナミックな光など、様々な光の表現の仕方を模索しています。

会員推挙 絵画部 植村節子



1目見て、あ、描きたいな！と思った景色が、夏の終わりのひまわりと、そのまわりに咲きほころぶコスモスとのコラボレーションでした。まるで季節をパトタッチのごとくです。又、終焉のひまわりと、その孫でしょうか？ 裾で可憐に咲いている姿のツーショット。又、ふる里の古民家を守るごとく庭に咲く大きなひまわり等、テーマに飽きる事はありませんでした。

しかし、まだお気に入りの作品がありません。何かが多く、何か足りない、まだまだ迷路の中です。もう少し、このテーマで頑張ってみたいと思っています。

会員推挙 絵画部 河原憲行



2012年に65歳で仕事を辞めてから妻と一緒にイタリア周遊の旅に出かけた。ミラノ、ベネツィア、フィレンツェ、シエナ、アッシジ、ローマ、ナポリ、10日間の旅でしたが、とりわけ小高い丘の街シエナに一泊する事になり、駐車場でバスを降りカメラを手にホテルを目指した。上り下りの坂道を歩いて行くとシエラの街の赤い屋根が目飛び込んできて、カメラのシャッターを押し続けました。カンポ広場のマンジャの塔の螺旋階段をのぼり「世界一美しい広場」と言われるカンポ広場を見下ろすシエラの街は絶景でした。それから10年シエナに魅せられて油絵を描いています。模写の教室で古典技法を習い絵を描いております。有り余る時間を楽しみながら過ごしています。

会員推挙 絵画部 木下 脩



8年前、アメリカ国立公園の旅で訪問したアッパー・アンテロープキャニオンは、砂漠にときおり降る猛烈なスコールで砂岩が削り取られて出来た狭い峡谷です。この谷底の所々に日光が届く幻想的な空間で、自然が作った造形と注ぐ陽光により作られた明暗に強い感動を受けました。

78歳で油絵教室に通い始めた頃と重なり、主題としてこの峡谷の幻想的な光と影を油絵に表現するか格闘しながら継続して挑戦しています。最近、油絵を描き始めた頃に比べ、どうも描く油絵に勢いがなくなっていると自覚しています。

この度の会員の推挙を励みとして、今後も意欲的に挑戦してゆきたいと思っています。

会員推挙 絵画部 木村和彦



「油絵を描きたい」と、思ったのは高校入学時である。経済的な理由ですぐ断念したが、いつか挑戦したいという思いは、ずっとあった。千葉市のことぶき大学校に入り、いよいよ念願の油絵を描くことになった。パレットやキャンバスで色をこねたり、他の色と混ぜたりしていると、だんだんと絵になじんでくるのが不思議で、快感でもあった。

題材は「美しいと感じたもの」を描こうと、決めているが、そんな出会いがいつもあるわけではない。無いときは、体を動かして探すしかないのが苦勞の種だ。

一陽会の「先鋭なる未完成」という言葉が好きで、安心したり、励まされたりしている。会員として恥ずかしくない作品を描こうと、改めて思っている。

会員推挙 絵画部 黒崎 博



トンネル工事用機材をテーマとした作品ですが、形が男性的で遅しく、この特異な造形美に感動し描いています。鋼材のサビや塗装はがれ、セメントのノロが付着し汚れていますがこれがまた魅力でもあります。また厳しい冬にも堪え忍ぶ情景を頭に描きながら絵に表現しようと思いました。画面いっぱいにとらえどっしりと重量感をもって力強いタッチとし、色彩では見る人にパッと印象づけて独自の作風を作り出せないか苦労しています。油絵具の表現としては、テーマはピッタリと思っています。写実主義でありたい私ですが、もっと混色に工夫をこらし、一気呵成ではなくて更に時間をかけ何回も色を重ねて描くことが必要であると考えています。

会員推挙 絵画部 小藪達也



潮の香や波の音に生命の躍動を感じ、水面に映る舟の揺らぐ形の面白さに魅せられ…と、幾度も水のある風景を描き続けてきました。初任地から帰省する際に横目で見えていた木曾川、憧れをもって何度も訪れた大王崎灯台、アートの役割や力を感じさせてくれた豊島、さらに舞阪・形原といった漁港、能登の巖門、上高地の大正池、そしてわが郷土水都大垣。今回の作品「南国 初冬」は12月に沖縄のピオスの丘で取材したものです。

生命の源たる水は、きらめき、ゆらめき、様々なその表情を変える実に魅力的なモチーフです。その水の魅力を引き出せるような作品をこれからも追求していきたいと思っています。

会員推挙 絵画部 鈴木啓子



あーでもない、こーでもない、と日々送りながら混迷の時、ただ眺めているだけで、“絵が描けない自分”を発見。今は描きながら、奥のものを引っ張り出したり、迷いのない線を探しながら、何が出てくるかわからないのでちょっと楽しいかな。

振り返ると自分探しの旅のようです。この先、作品の中での旅はあるのだろうか。

ご縁あって一陽会のメンバーである事に、この上なく幸せです。感謝。

会員推挙 絵画部 巽富士子



私と機関車の出会いを少しお話ししたいと思います。ある日、子ども達連れて鉄道博物館に行く広い館内に沢山の列車が美しく佇んでいました。夢中になる子ども達からふと外に目を向けると映像の中でしか見たことのない黒い列車がありました。吸い寄せられるように中に入ると、人が二人入るといっぱいになる空間の中で見慣れない構造の機械、薄っすらと埃にまみれ、ペンキの擦り切れたハンドルなどがありました。現代とは違う世界と時間がそこに在りました。手持ちの小さなスケッチブックに夢中で何枚も描きました。描いても描いても納得のいく作品はできませんが、自分しか描けない絵をこれからも描き続けていきたいと思っています。

会員推挙 絵画部 永田和行



若い頃は印象派の風景画が好きでした。しかし見たままのように描くことについて違和感を感じ、印象を構成するエッセンスを抽出したような表現ができなにかという思いがありました。ある時師匠のアトリエで木村忠太の画集を見てガツンと感じました。あ、これだ!と思ったものの中々そんな表現には届きません。形と色で絵画はできています。私には論理的に分析して表現することは無理なのでやはり直感を意識した色と形で構成するように努めています。対象に捉われて説明に走ることを除いて行きたいのです。でも例えば美しい女性を描く機会がありますと美しさに目が行き写しとるように筆を動かしてしまう修業の足りない75歳です。

会員推挙 絵画部 中村竹子



私は画歴は長く、昔は油彩でボロ電とか船のサビサビとかを描いておりました。ここ7、8年はアクリルで水の流れを描いて楽しんでおります。孫をつれて水族館へ行ったことでミノカサゴを知り、水にゆらゆら泳ぐ美しさに感動しました。あちこちの水族館を訪ね歩きました。どういう構図にするか迷ってばかりです。

まだまだたっぷりあると思った自分の時間、人の持ち時間は期間限定、残された時間を大切に絵を楽しみます。

会員推挙 絵画部 藤木良一



20代で県展に入選し絵を描く楽しさを知り、忙しく忘れていましたが再度描くようになると絵筆を持つ楽しさが分かり被写体の見方、人のつながり、接し方と人生の幅が広くなり一時ショパンのピアノ曲に熱中しよく聴き人生の浮き沈み、喜怒哀楽を感じてきました。街中に出かけると建物構造物の直線、曲線の変化の面白さ美しさ優しさ力強さに注目するようになり、散歩することが楽しくなり、澄みきった空にくっきりとした立山連峰の峰々を見て、山々の美しさを思いさげない風景に絵筆を持ち、楽しみながら自分らしさを生かし描き、個展、グループ展を時間と体の許すかぎり楽しみたいと思います。

会員推挙 絵画部 安富洋貴



遠い昔に撮った古い写真、そこに映っている風景の場所に後年行ってみると、往時の建物等が跡形もなく消えて様相が一変していた、という経験を持つ人は少なくないと思います。
記憶の中では、目の前の現実のそれとは全く別の風景が広がっていて、それはまさに手にしている一葉の写真に写っている、という経験を。
映像的に見えている形姿を拠り所に画を描いていますが、そこにモノが実在するという事よりも、夢や記憶のような、実在が不確かなものに親近感を覚えます。
描き留めたいのは、そのような心象の世界。
何色(なにいろ)と形容し難い無彩色で広がる心象の世界を、描き留めたいと願って止みません。

会員推挙 絵画部 渡邊光章



中学生の頃から人生転機が3回ありました。1回目は家庭工作科の時間に宿題としてそれぞれの自宅の間取りを書いてくること。その評価が大変よくその結果、建築の専門学校へ進学しました。それから40年公私ともに時間の余裕ができて風景写真に興味を持ち25年間全国各地を撮り歩きました。
然しながら、家内の自宅介護の為断念しました。丁度そのころ従来からの知り合いだった一陽会の先輩に勧められ絵のほうで頑張ろうと思ひ、一般公募に挑戦してみました。あれから10年経ちました。写真の技術を参考に色具合や、明暗、遠近差を試行錯誤しながら、やっと会員推挙の栄誉を戴きました。最終章に向かっている自分に再度頑張れよと思ひ召しかもしれません。

会員推挙 版画部 明輪勇作



濡れ色と乾き色が変わらない。「乾け、溶ける」と言ったらすぐ乾いて溶ける。「右に行け、小さくなれ、背景を交換」と言ったらすぐ叶う等々、このような理想の画材は無いものかと思っていましたが、デジタルを知ってからすべて解決しました。おかげで制作が速くなりました。制作が速くなれば、限りある人生、さまざまな持ち時間が増えることになります。
将来は、チップに入れた作品を子孫に渡して「プリントして売ってもいいよ」と言います。私のような無名氏は、こうやって自作の存続を図ります。デジタルは、将来再々プリントをすることで新鮮な色が蘇る一種の不変色でもあります。

会員推挙 彫刻部 清水啓一郎



私はここ数年林檎の上に乗った猫を作り続けています。林檎にはそれを私のために剥いてくれる誰かの気配があり、満たされた日常と理想の両方をイメージできる興味深いモチーフです。猫は元々苦手な動物でしたが、大の猫派の妻と暮らすうちにすっかりその魅力の虜となりました。林檎と同じく家族の団欒と幸福の象徴です。
この先残された時間に不安と期待を抱きつつ対峙するとき、私にとって家族の存在は希望であり、安らぎであり、重い枷でもあり、生きる理由そのものです。
健やかなるときも病めるときも人生を分かち合い、守って行きたい。その重責も、何気ない日常も、全てが愛おしい。今のそんな気持ちを作品に込めました。

第4回 一陽会関西支部彫刻展

2023年2月28日～3月5日
原田の森ギャラリー東館1階



津野充聡 鎌田和見 前川芳輝 橋本雅美
生駒小織 島崎 将 富士玄峰 松村一夫

小林一夫 彫刻展 ～大地も鼓動が聞こえる～

2023年3月21日～30日 ギャラリー884



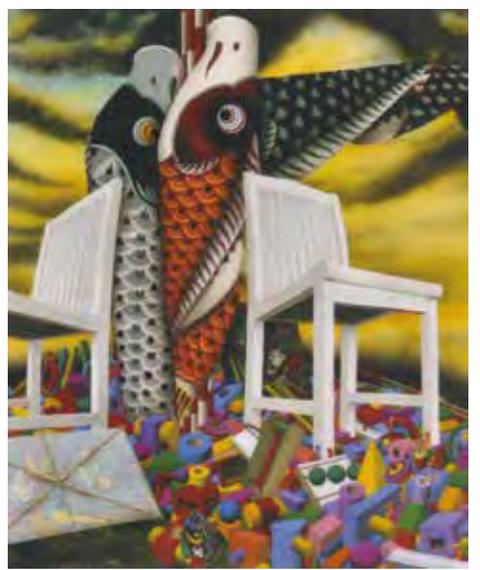
伝えたいかたち 彫刻とドローイングVol.3 一陽会8作家

2023年3月23日～28日 ギャラリー&カフェ Zaroff



岩壁善兵衛 石彫展 石と水のものごたけ・俳人(おもかげびと)

2023年4月3日～8日 いりや画廊



濱田清の世界
2023年4月14日～7月16日
SGT美術館 第2-3展示室

大吉田誠夫乃助 アフリカ展

2023年4月28日～5月5日 国宝高岡山瑞龍寺大茶道室



吉田光雄 展

2023年7月7日～17日 おいでやギャラリー



長谷川清晴 展 一時の世界

2023年8月26日～9月24日
弥彦の丘美術館



**インスタレーション3人展
大場吉美×齋藤久子×三井泰子**

2023年10月3日～15日
石川国際交流サロン



**萩中幸雄 大作 自選展
富山県美術連合会 作家展2023 美のシンフォニー**

2023年11月2日～28日 富山県美術館1Fギャラリー



河原憲行 作品展

2023年12月8日～10日
富山県民会館ギャラリーC



福家省造 展 【拡大するイメージ】

2024年2月6日～11日 ギャラリー ヒルゲート



古田恵子 展 無に立ち帰れば

2024年2月29日～3月3日 富山県民会館ギャラリーC



Jige 展

2022年7月17日～8月20日 ギャラリー小右衛門
蛭谷隆一 黒田 学 伏黒由利子 榎田律子

凜展

2023年10月31日～11月5日
金沢21世紀美術館 市民ギャラリーB
柴山桂子

東京支部 TOKYO

令和6年 第28回東京展は、今まで他の支部の出品依頼から形を変え、前年度一陽展の受賞者作品を東京支部会場の東京都美術館で同時に展示することになりました。中でも創立者賞の受賞者名はつぎの通りです。鈴木信太郎賞・長谷川清晴、野間仁根賞・古田恵子、高岡徳太郎賞・安藤義孝、植木力賞・三井正人の4名でした。又、これからの一陽会の未来を見据え、中学生以下の絵画作品を募集します。ご期待ください。

(支部代表 高岡 徹)

■一陽会東京支部の活動



準備・ギャラリートーク風景

■第27回 一陽会東京展

2023年5月28日(日)~6月4日(日)
東京都美術館(上野)

○特別出品(絵画)

千葉支部：
岩野美紗子 神戸貞子 小林八重子
佐々木康樹 白川幸子 山本映子

長野支部：
市川孝子 碓田順彦 小池華子 峯村欣弘
やまぐちかずお

○特別出品(彫刻)

八木ヨシオ 高橋正晴 土井敬真 林田 滋
三井正人 中根絢女

○受賞者

東京一陽賞 藤田裕子
特待賞 太田信三 馬場美康(彫)
奨励賞 大谷良一 川島信子
東美賞 伊沢良子

■第28回 一陽会東京展

2024年5月28日(火)~6月4日(火) 予定
東京都美術館(上野)

【一陽展受賞者企画展示】

(絵画)
一陽賞 藤本えつ子
青麦賞 長島文子

鈴木信太郎賞 長谷川清晴
野間仁根賞 古田恵子
会員賞 白川幸子 菅原礼子
会友賞 遠藤優綾 岡恵美子 喜多誉子
特待賞 土居由利子
瑞繪賞 木下由美子
武田厚賞 藤田裕子
(彫刻)
青麦賞 林 徳和
植木力賞 三井正人
会友賞 平野正春

【特別出品展示】

八木ヨシオ 土井敬真 三井正人
磯山芳男 吉村雅利 予定

■個展グループ展

●水彩連盟展
2023年4月5日~17日 国立新美術館 渡辺通子

●自然と人工展
2023年4月10日~15日 ギャラリー志門(銀座)
磯崎式子

●一陽会・11小品展
2023年4月10日~16日
杉野ギャラリー(銀座) 高岡 徹 小松富士子
杉山 司 磯崎式子 木村さかえ 小林ミイラ
永井泰子 藤田裕子 山口桂子 山田幸彦
渡辺通子

●第4回 玉川大学・玉川学園学友会文化・芸術展
2023年5月15日~27日
《玉川学園内STREA MHALL 2019》 小林達也

●43e MINI INTERNATIONAL DE CADAQS 2023
2023年6月24日~9月30日
aller Galeria Fort(スペイン) 小林ミイラ

●イストワール小品展
前半/2023年6月26日~7月1日
Meets Gallery(銀座) 磯崎式子

●イストワール小品展
後半/2023年7月3日~7月8日
Meets Gallery(銀座) 明輪勇作

●つばさ会美術展
2023年7月24日~2024年1月24日
市ヶ谷防衛省厚生棟展示室他(一部非公開)
太田信三

●友軌展
2023年8月1日~8月7日 みなとみらいギャラリー
太田信三

●グレートリープ大賞展II
2023年8月22日~27日 世田谷美術館
2023年9月5日~10月29日 菱川師宣記念館
小林ミイラ 藤田裕子

●One Drop 2023
2023年8月29日~9月3日 好文画廊(日本橋)
磯崎式子

●第56回 鎌倉美術展(マツダ賞)
2023年6月23日~6月29日 好文画廊(日本橋)
三浦安針

●第18回 会津美里町総合美術展(招待出品)
2023年8月30日~9月6日
じげんプラザじげんホール 三浦安針

●2023 AIDA Associo International Duana
de les (Correus)
2023年10月26日~11月12日
Revista Rapita(スペイン) 小林ミイラ

●ダ・ヴィンチとの共鳴展
2023年10月18日~20日
クロ・リュス城 ダ・ビンチパーク内(フランス)
小林ミイラ

●第71回 北区美術展
2023年10月30日~11月3日 北とびあ
小林ミイラ

●交差する異視点
2023年11月6日~11日 ギャラリー暁(銀座)
高岡 徹 磯崎式子

●第Ⅲ回 秋の会
2023年11月13日~18日 ギャラリーVent(銀座)
伊沢良子

●「十」の眼展
2023年12月4日~12月9日 ギャラリー暁(銀座)
磯崎式子

●けいちつ会展
2023年12月4日~12月10日
サブウェイギャラリーM(横浜) 太田信三

●モノクロム展
2024年2月19日~24日
ギャラリーSTAGE-1(銀座) 磯崎式子

●夢のイストワール展
2024年3月1日~3月6日 ○美術館 明輪勇作

■支部の主な役員・会議開催 等
○支部長 高岡 徹(統括責任、審査委員)
○事務局 藤田裕子(杉山 司)
○会計 山田幸彦 安田 操
○会計監査 高岡 徹 太田信三
○ホームページ 飯澤公夫 明輪勇作

ほか メンバー全員で各種業務を担当しております。

2023年度 第1回 役員会議 2023年6月24日 開催
東京支部総会 2023年7月22日 開催
第2回 役員会議 2023年10月6日 開催
第3回 役員会議 2023年12月10日 開催

2024年度 第1回 役員会議
2024年4月末 開催予定
(藤田裕子 記)

関西支部 KANSAI

◇主に2023年2月(一部1月含)~2024年1月

■はじめに

美術館もギャラリーも、例年通りの活動が戻って来た一年であった。また大阪市立美術館の大規模改修工事に伴い、2023年度の関西一陽展、巡回展は、支部会員の尽力により京都市京セラ美術館での開催となった。

■第61回 関西一陽展

2022年3月28日~4月2日
京都市京セラ美術館(京都市)
初めての京都市京セラ美術館での開催で、広さの都合もあり、委員・会員・会友の作品を1点に制限した。また、入場料を無料としたことで、観光で京都に来られた方も含め、今まで一陽会になじみのなかったお客様も多く来場、見て頂ける機会となった。

〈出品状況〉 絵画 88点 (初出品4点)
彫刻 9点

〈入場者〉 2,537人
〈第60回 関西一陽展受賞者〉
関西一陽賞 岡恵美子(絵画)
京都市長賞 出村谷幸子()
京都市教育長賞 藤林文子()
ホルベイン賞 横田真吾()
奨励賞 梅本栄子()
大城久美子()
大西美陽子()
玉置義弘()
富士玄峰(彫刻)
大東明宏(絵画)

M賞 永田和行()
会友賞 豊岡知世枝()
一陽会関西支部同人推挙 松村祐一()
山本 学()



第61回関西一陽展授賞式の様子

■第68回 一陽展(巡回展)

12月8日～13日 京都市京セラ美術館(京都市)
 第61回関西一陽展に続き2回目の京都市京セラ美術館での開催となった。支部会員皆様のご協力のもと、無事開催することができた。京都という場所柄か、一般のお客様をはじめ、巡回作品の会員の皆様にも多く来場頂いた。
 (出品状況) 絵画 108点 (内巡回46点)
 版画 3点 (すべて巡回作品)
 彫刻 11点 (内巡回2点)
 (入場者) 1,447人

■関西支部会員による一陽会の展覧会

●第4回 一陽会関西支部 彫刻展

2月28日～3月5日
 兵庫県立美術館王子分館原田の森ギャラリー
 津野充聡 鍛田和見 前川芳輝 橋本雅美
 生駒小織 島崎 将 富士玄峰
 松村一夫(賛助出品)

●一陽会関西小品展 KYOTO

3月26～4月2日 アートスペース袖YOU
 安孫子百合 泉谷淑夫 尾島 守 楠森道剛
 隅田博美 巽富士子 たつみゆうこ 檀野計藏
 中田絵里 永田和行 永田啓子 西山真理子
 福家省造 古野恵美子 松村一夫 水谷喜美子
 溝下美代子 三村恵理

●2023 一陽会関西作家展

6月13日～18日
 西宮市立北口ギャラリー(兵庫県西宮市)
 安孫子百合 大西正雄 大東明宏 奥谷卓則
 尾島 守 川邊嘉章 楠森道剛 古曾成樹
 墨川廣徳 隅田博美 高孝壬津子 巽富士子
 たつみゆうこ 田淵幹夫 檀野計藏 津末慶子
 中田絵里 永田和行 永田啓子 南谷昌二郎
 西尾昭子 西山真理子 橋本紀夫 平田せつ子
 福島涼子 福家省造 藤田安臣 藤本元美
 古野恵美子 松村一夫 松村祐一 水谷喜美子
 溝下美代子 三村恵理 山下潤志 山本 学
 吉岡浩一 渡邊光章

■支部会員(委員、会員、会友)の活動について

各人それぞれ精力的に制作し、発表する活発な活動が行われた。

■支部会員の個展

●矢野真 展－物語の一コマ－

1月19日～28日 大雅堂(京都府)

●古野恵美子 洋画展

5月11日～17日 京阪百貨店(大阪府)

●前川芳輝展

5月18日～23日 イグ_エム_アートgallery(大阪府)

●永田啓子 展

5月25日～30日 茨木市立ギャラリー(大阪府)

●泉谷淑夫 展

5月30日～6月4日 天神山文化プラザ(岡山県)

●安富洋貴 鉛筆画展

9月13日～25日 高島屋大阪店(大阪府)

●安富洋貴 展

10月2日～14日 東邦アート(東京都)

●古野恵美子 洋画展

12月5日～10日 ジェイアール京都伊勢丹(京都府)

●楠森道剛 展 祈～UKELI～

12月19日～24日 ギャリエヤマシタ2号館(京都府)

■支部会員のコンクール、企画展への参加

●第49回 公募京都水彩展

2月28日～3月5日 京都市京セラ美術館 谷口紳一

●第7回 青木繁記念大賞ビエンナーレ

7月1日～30日 久留米市美術館(福岡県)
 大西正雄

●第8回 姫路城現代美術ビエンナーレ2023展

7月14日～23日 姫路市民ギャラリー(兵庫県)
 水谷喜美子

●グレートリープ大賞展

8月22日～27日 世田谷美術館
 尾島 守(大賞) 溝下美代子(奨励賞) 松村一夫

●第67回 守口市美術展覧会展覧会

11月16日～19日 守口市役所 水谷喜美子(審査)

●第67回 守口市美術展覧会 優秀作品展

11月23日～26日 守口市役所 水谷喜美子

●守口美術協会 会員展

11月23日～26日 守口市役所 水谷喜美子

●こうべ芸文芸術祭

10月25日～29日 原田の森ギャラリー
 (絵画) 川邊嘉章 藤本元美
 (彫刻) 島崎 将 津野充聡 前川芳輝

■支部会員のグループ展などへの参加

●いま、「平和のために」

ひたすら『非戦』を願う美術家たちの作品展
 2月7日～12日 堺町画廊+ギャラリーヒルゲート
 福家省造 古野恵美子

●第48回 京都教職員美術展

2月28日～3月5日京都市京セラ美術館 福家省造

●第18回 アートフォーラム宇治 AFU美術展

3月2日～5日 治市中央公民館・展示企画室
 福家省造 永田和行

●枚方の美術家展 vol.2

3月15日～3月20日
 ひらしん美術ギャラリー(大阪府) 古野恵美子

●第39回 FR展

3月18日～22日 宇治市生涯学習センター
 奥谷卓則(賛助) 永田和行

●第8回 兵庫県洋画団体協議会展

3月22日～26日
 兵庫県立美術館王子分館原田の森ギャラリー
 川邊嘉章 藤本元美 大東明宏
 孝高壬津子 新村則一 西尾昭子
 津野充聡 橋本雅美 前川芳輝

●西宮三十六景 春期展

4月5日～11日 ギャラリーSHIMA 川邊嘉章

●第21回 日・韓美術交流展

6月9日～17日 京都市国際交流会館 福家省造

●同じ刻を生きる作家展8

6月13日～18日 京都市京セラ美術館 福家省造

●亜土会

6月23日～28日 オプトギャラリー 永田和行

●第30回 心に響く小品展

6月27日～7月9日 ギャラリーヒルゲート
 古野恵美子

●ヴィジヨニア展

7月9日～16日 アートスペース袖 you 福家省造

●第15回 真夏のアートフェスティバル

7月4日～14日 ギャラリー菊 山下潤志

●宇治を描く絵画展

7月11日～17日 宇治市生涯学習センター
 福家省造

●『西宮三十六景』夏季展

7月12日～18日 ギャラリーSHIMA 川邊嘉章

●ガクラクト展 2023

7月17日～22日 マサゴ画廊 松村一夫

●第15回 真夏のアートフェスティバル

7月18日～28日 ギャラリー菊 山下潤志

●兵庫県美術作家協会展

7月17日～23日 原田の森ギャラリー
 大東明宏 尾島 守 鍛田和見
 津野充聡 中田絵里 藤本元美

●兵庫県彫刻家連盟展

7月25日～30日 原田の森ギャラリー
 津野充聡 隅田和見 前川芳輝 橋本雅美
 生駒小織 島崎 将 富士玄峰

●VISIONNAIRE

9月12日～17日 法然院講堂 福家省造

●第67回 西宮美術協会展

9月19日～10月1日 西宮市立市民ギャラリー
 川邊嘉章

●Thanks ギャラリー菊展

9月23日～30日 ギャラリー菊 山下潤志

●橋本美術同好会展

10月5日～10日 デュオぎやらりー 橋本紀夫(賛助)

●第10回 現代美術ZEROの視点

10月9日～14日 ギャラリー菊 尾島 守 松村一夫

●『西宮三十六景』秋季展

10月11日～17日 ギャラリーSHIMADA
 川邊嘉章

●西宮芸術文化協会作家の近作展

10月13日～28日 西宮市立市民ギャラリー
 川邊嘉章

●文学と美術

10月21日～29日 アートスペース袖YOU
 安孫子百合 福家省造

●第51回 宇治市民絵画展

10月26日～29日 治市中央公民館 福家省造

●こうべ芸文芸術祭

10月25日～27日 原田の森ギャラリー
 川邊嘉章 藤本元美 津野充聡
 橋本雅美 桑田和見

●第18回 イーゼル会展

11月2日～6日 フリースペース宇治日和
 福家省造(賛助)

●ハクの会作家展

11月7日～12日 京都府立文化芸術会館
 奥谷卓則 福家省造

●The 19th salon Painting Exhibition

11月24日～29日
 守口文化センターエナジーホール
 安孫子百合 孝高壬津子 田淵幹夫 檀野計藏
 西山真理子 水谷喜美子 森本正義

●第12回 月曜会作品展

11月28日～12月3日 西宮市立市民ギャラリー
 下坂雅俊 山下潤志(賛助)

●2023 強と野外彫刻展

12月2日～17日 京都府立陶板名画の庭 島崎 将

●国際交流総合展

12月9日～24日 京都市美術館別館
 安孫子百合 福家省造

●第10回・F6展

12月11日～16日 マサゴ画廊 松村一夫

●第5回 ねこアール展

12月17日～24日 アートスペース 袖YOU

●国際交流総合展

12月19日～24日
 京都市美術館別館 安孫子百合 福家省造
 アートスペース袖YOU 安孫子百合 西山真理子

●迎春干支展

2024年1月7日～20日 アートスペース袖YOU
 福家省造

●第32回 折々の作家たち展

2024年1月9日～21日 ギャラリーヒルゲート
 古野恵美子

●ヴィジヨニア展

2024年1月16日～28日 Gallery翔 福家省造

■関西支部としての会議、打ち合わせなど

巡回展、関西一陽展等について、事務局を中心に次のような会議、打合せを行ってきた。

●事務局会議(会場=主に、エル・おおさか)

- 支部会議および展覧会の前に随時開催
- ・ 1月 9日 新年総会に向けて
- ・ 4月 23日 第69回一陽展について
- ・ 9月 17日 第69回一陽展に向けての段取り
- ・ 10月 8日 巡回展陳列会議準備など
- ・ 11月 26日 決算総会に向けて(同日、会計監査)

●支部会議(会場=主に、エル・おおさか)

- ・ 1月 22日 新年総会
(年間計画、予算、第61回 関西一陽展準備など)
- ・ 5月 7日 第69回 一陽展について
(同発送事務)
- ・ 9月 17日 第69回 一陽展巡回展発送事務
- ・ 10月 8日 第69回 一陽展について
- ・ 12月 10日 決算総会
(第62回関西一陽展発送事務)
- ・ 2023年1月21日 新年総会

◇2024年3月以降の予定

●第62回 関西一陽展

3月13日~3月17日
兵庫県立美術館王子分館原田の森ギャラリー

●一陽会 関西作家展

6月18日~23日 西宮市立北口ギャラリー

●第70回 一陽展(巡回展)

10月22日~27日 京都市京セラ美術館別館

■2024年度 関西支部事務局

事務所 大東明宏
 会計部 (支部会計) 安孫子百合
 (関西展会計) 溝下美代子
 (一陽展(巡回展)会計) 古野恵美子
 事業部 尾島守
 会計監査 西青昭子 檀野計藏
 相談役 運営委員・委員
 (古野恵美子 記)

千葉支部 CHIBA

■千葉支部活動

◎総会

やよひ展打合せ 1月15日(12:00~)
 オークラ千葉ホテル
 新春サムホール展(委員・会員出品) 1月17日
 ギャラリー金巴里
 第4回 ちば・やよひ展(24名出品) 3月16日
 画廊ジュライ

◎準備会

第46回 千葉一陽展について 1月18日(13:30~)
 県立美術館講堂
 第46回 千葉一陽展 6月15日 千葉県立美術館
 ◎幹事会
 12月17日(13:00~) 県立美術館講堂

■個展

- 濱田清の世界 4月14日 SGT美術館
- 古賀敦子ガラス絵小品展 7月1日 はっぴいべっせる
- 生田裕人 展 8月17日 画廊ジュライ
- 細野美佳 透明水彩展 12月6日 ミレージャギャラリー

■グループ展・その他

- ギャラリー・いなげ新春展 1月4日 市民ギャラリー・いなげ 福山歩由美
- 新春ガラス絵展 1月9日 ざらりい サムホール 川口文子 古賀敦子
- 福島県在京美術家協会展 2月13日 小津ギャラリー 濱田 清 山口陽子
- 一権会展 2月16日 画廊ジュライ 講師 濱田 清
- 9人の女流作家展 2月23日 画廊ジュライ 大久保綾子
- Luana展 2月28日 市民ギャラリー・いなげ 白川幸子 白川雅義 細野美佳

- 東陽歩み会えんぴつ画展 5月12日 江東区文化センター 講師 福山歩由美
- みなづき展 6月6日 ギャラリー金巴里 構成員多数参加
- Deux Expressions(2人展) 6月13日 青葉の森公園 森のギャラリー 細野美佳
- 歩み会えんぴつ画展 6月13日 市民ギャラリー・いなげ 講師 福山歩由美

- 一陽展展受賞作家小品展 6月15日 ギャラリー金巴里 本展受賞者・推挙者参加
- 絵画グループ(α)展 6月20日 市民ギャラリー・いなげ 白川幸子 白川雅義 細野美佳
- 野田美術会小品展 6月20日 興風会館 鹿又保子
- 千葉県水彩会展 7月4日 千葉県立美術館 鹿又保子

- Japanese Selected Artists in Istsnbul TR 7月28日 Schneidertempel Arts Center 大北節子
- アートで語る展 8月21日 ギャラリー一眺 大北節子
- 白鯉展 10月6日 ギャラリー白鯉 細野美佳

●Japanese Selected Artists in NY

10月31日 CAELUM Gallery 大北節子

●グループa展

11月5日 東京交通会館シルバーサロン
 福山歩由美 宮下祐子

●金巴里展

11月7日 ギャラリー金巴里 構成員多数参加

●野田美術会展

11月8日 さわやかちば県民プラザ 鹿又保子

●野田美術会チャリティィー展

11月14日 興風会館 鹿又保子

●袖ヶ浦美術展

11月15日 袖ヶ浦市根形公民館 白川雅義

●女子美術大学同窓会 千葉支部展

11月8日 千葉市美術館市民ギャラリー
 大久保綾子

●ほおじろ会芸術展

12月5日 千葉県立美術館
 生田裕人 三瓶繁男 白鳥 寛

■コンクール・その他

●第54回 千葉市展

3月4日 千葉市美術館
 依囀優秀賞 山田久子
 千葉市美術協会賞 生田裕人
 千葉市文化連盟会長賞 釘持哲男
 千葉市美術館長賞 宇梶陽子
 千葉日報社賞 小林八重子
 奨励賞 安藤 均 岡 俊江 黒川秀夫
 篠崎 聡 白鳥 寛 鈴木信博
 土居由利子 前野啓子

●第2回 グレートリープ展

8月22日 世田谷美術館
 クサカベ賞 黒川秀夫
 リキテックス賞 山田久子
 入選 岩野美紗子 加納勝子 白川幸子
 永井富貴子 安藤 均 岡 俊江 三瓶繁男
 白鳥 寛 高橋 雅 土居由利子 前野啓子

●第72回 千葉県展

10月5日 千葉県立美術館(会員以上無鑑査)
 常任理事出品 濱田 清
 理事出品 宇梶陽子 大北節子
 山崎泰司
 大久保綾子
 会員出品 生田裕人 岩野美紗子 植村節子
 木村和彦 楠 忠臣 黒川秀夫 河野緋紗
 小嶋英子 小林八重子 坂井幸子 篠崎 聡
 中村竹子 牧内弘明 山口陽子 山田久子
 山本映子 三瓶繁男 細野美佳 前野啓子
 小松幸廣 里地芳美 鈴木信博
 会員推挙 安藤 均 岡 俊江 加納勝子
 川口文子 釘持哲男 杉山 豊 高橋 雅
 永井富貴子 長島文子

県議会議長賞 土居由利子
 県立美術館長賞 細野美佳

●第10回 飯田弥生賞展

11月25日 飯田弥生美術館
 審査員賞 安藤 均
 奨励賞 白鳥 寛
 入選 川口文子 小林八重子 加納勝子
 永井富貴子 前野啓子
 (大北節子 記)

神奈川支部 KANAGAWA

■支部活動

●第25回 神奈川一陽展
 6月13日~18日 横浜市民ギャラリー



●研修会

6月17日 横浜市民ギャラリー

■個展・グループ展・公募展

◇3月

●川崎市美術展

ミューザ川崎シンフォニーホール 吉野すみ子

◇4月

●岩壁善兵衛 石彫展

いりや画廊 岩壁善兵衛

◇5月

●横浜美術協会会員・会友展

横浜市民ギャラリー 村杉哲子

◇6月

●第40回 茅ヶ崎美術家協会

茅ヶ崎美術館 横須賀康子

●第76回 女流画家協会展

東京都美術館 塩川慧子

●ペティオン展Ⅳ(ムサシ企画)

ギャラリームサシ 塩川慧子

◇7月

●水彩プチパン展

仲通りギャラリー 村杉哲子 茶畑頭子 菅原礼子

◇8月

●グレートリープ展

世田谷美術館 今井由夫 茶畑頭子 菅原礼子

◇9月

●詩画展

画廊 楽 村杉哲子

- グレートリープ展 巡回展
菱川師宣記念館 今井由夫 茶畑顕子 菅原礼子
◇11月
- ハマ展
横浜市民ギャラリー 村杉哲子 井口栄資 長谷川久
- Art of giving
ギャラリー しろむじ 長谷川久
- 水彩画 合同展
ポーノ相模大野ユニコムプラザ 杉藤 実
◇12月
- ギフトはアートだ
九条Tokyo 長谷川久
◇2024年1月
- 杉藤 実 個展
相模原桜台美術館 杉藤 実
- グレートリープ展
世田谷美術館 今井由夫
- プチパン展
仲通りギャラリー 村杉哲子 茶畑顕子 菅原礼子
- 新春ギャラリー展
鎌倉市生涯学習センターギャラリー 横須賀康子
◇2月
- 第79回 ハマ展受賞者展
画廊 楽 長谷川久
◇3月
- 第41回 茅ヶ崎美術館協会展
茅ヶ崎美術館 横須賀康子
◇6月
- 二人展
鶴見画廊 長谷川久
◇8月
- 第3回 日本版画院神奈川支部展
神奈川県民ホールギャラリー 長谷川久
(菅原礼子 記)

中部支部 CHUBU

- 支部活動
- 第59回 中部一陽展
5月2日~7日 愛知県美術館 ギャラリー 8F
(出品者25名 絵画43点・彫刻5点 合計48点)
(受賞者)
(絵画)
中部一陽賞 近澤美穂子
中日新聞社賞 亀山敏子
東海テレビ放送賞 片岡重保
奨励賞 佐々木美樹子 上田多津子 伊藤知佐子
(彫刻)
新人賞 坪内哲治
(出品者)
(絵画) 久保田正剛 小畑恭子 西脇義照
野田美子 松原美幸 大橋壯久 片野泰人

- 山田芳之 大島満男 山田晃平 小藪達也
鈴木啓子 岩田悠子
森島昭道 田口哲也
(彫刻)
- 第49回 岐阜一陽展
8月22日~8月27日 岐阜県美術館 一般展示室
(出品者22名 絵画35点・彫刻3点 合計38点)
(絵画) 久保田正剛 小畑恭子 西脇義照
野田美子 松原美幸 大橋壯久 山田芳之
大島満男 山田晃平 小藪達也 岩田悠子
森島昭道
(彫刻)
- 第69回 一陽展
10月5日~10月17日 国立新美術館
(受賞者)
(絵画)
奨励賞 近澤美穂子
会員推挙 鈴木啓子 小藪達也
会友推挙 亀山敏子 片岡重保
- 第24回 陽友会展
10月31日~11月5日 名古屋市民ギャラリー栄
久保田正剛 小畑恭子 野田美子 大橋壯久
山田芳之 山田晃平 鈴木啓子 岩田悠子
- 中部一陽会 打合せ
3月13日 名鉄カルチャースクール名駅

- 個人活動
◇2023年3月
- 木金展
名古屋市民ギャラリー 小畑恭子
◇4月
- 第44回 羽島市美術協会展
不二羽島文化センター 小畑恭子
- 「アートギャラリーYORO滝音」オープン記念作品展
アートギャラリーYORO滝音(養老公園) 西脇義照
- 河井一郎と仲間展
ギャラリージャック&ベティ 大橋壯久 山田晃平
- 垂井町美術協会展
垂井町文化会館 片岡重保
◇5月
- 藤原久美子と門下生作品展
大垣西濃信用金庫本店 森島昭道
- 蒲郡市文教絵画展
蒲郡市博物館ギャラリー 片野泰人 鈴木啓子
- 色鉛筆講座
不二羽島文化センター 小畑恭子
- 第79回 六酔会展
大垣市文化会館 山田芳之
- 第65回 大垣美術家協会展
大垣市文化会館
久保田正剛 森島昭道 西脇義照
山田芳之 小藪達也
- 尾張旭芸術展
尾張旭市文化会館 岩田悠子

- ◇6月
- 「アートギャラリーYORO滝音」第2回 作品展
アートギャラリーYORO滝音 西脇義照
- 羽島円空木彫同好会作品展
羽島市歴史民俗資料館 森島昭道
- 尾張旭美術部会展
スカイワード旭 岩田悠子
- ◇7月
- 美術協会洋画部展
不二羽島文化センター 小畑恭子
- ネオ・ダール展
大垣市文化会館 片岡重保
- 第54回 西濃地区美術教育者展
大垣市文化会館 森島昭道 山田芳之 小藪達也
- 六酔会市民病院展
大垣市民病院 森島昭道 山田芳之
- 羽島円空木彫同好会 作品展
羽島観光交流センター 森島昭道
◇8月
- 第2回 南美展 大垣フォーラムホテル
久保田正剛 西脇義照 山田芳之
- 游展
岐阜県美術館 大島満男
◇9月
- 第36回 西濃美術展 大垣市文化会館
久保田正剛 森島昭道 西脇義照
山田芳之 小藪達也 片岡重保
- 第9回 円空彫り作品展
不二羽島文化センター ギャラリー円空 森島昭道
- 第75回 岐阜市美術展覧会
岐阜市文化センター 審査員出品 森島昭道
◇10月
- 第72回 大垣市美術展
大垣市文化会館 森島昭道 西脇義照 山田芳之
- 垂井町美術展
垂井町文化会館 審査員出品 久保田正剛
片岡重保
- 渋川公民館作品展
渋川公民館 岩田悠子
- 愛知県文連美術展
愛知県美術館 岩田悠子
- 第57回 養老町美術展 養老町民会館
審査員出品 久保田正剛 西脇義照
- 文月の会展
カフェ&ギャラリー ジャック&ベティ 大島満男
- 尾張旭市民展
スカイワード旭 岩田悠子
- 第23回 源流展
岐阜県美術館 一般展示室 小畑恭子
- 森島昭道 絵画・彫刻展
大垣西濃信用金庫本店 森島昭道
◇11月

- 大垣東地区センター展
大垣市東地区センター 森島昭道
- 藤原久美子と門下生作品展
大垣共立銀行駅前支店 森島昭道
- 蒲郡市 市民文化祭 絵画展
蒲郡市博物館ギャラリー 片野泰人 鈴木啓子
- 「アートギャラリーYORO滝音」第3回 作品展
アートギャラリーYORO滝音 西脇義照
- 第46回 養老町美術協会展
養老町民会館 久保田正剛 西脇義照
- 第26回 養老教職員作品展
養老町民会館 久保田正剛 西脇義照
- 羽島市美術展
不二羽島文化センター 小畑恭子
◇12月
- 第46回 岐阜県有名人チャリティー色紙展
岐阜マーサ21 久保田正剛 西脇義照
- 講師直筆色紙展
名鉄カルチャースクール名駅 西脇義照
◇1月
- 第33回 藍画会展
岐阜市民会館 大橋壯久 山田晃平
◇3月
- 養老絵画教室作品展 ~それぞれの表現展 Vol2~
養老町民会館 西脇義照
- 愛知県文連美術展
愛知県美術館 岩田悠子
(西脇義照 山田芳之 記)

長野支部 NAGANO

- ◇2023年 活動報告
- 支部活動
- 役員会
1月29日 トイゴ 会計監査 役員引継ぎ
- 総会
3月 書面決議により実施
- 役員会
6月25日 トイゴ 支部展準備会
- 第56回 長野支部展 展示・研究会
7月27日
講師 館野 弘 運営委員
碓田順彦 委員 やまぐちかずお 委員
参加者20人
- 第56回 長野支部展
7月28日~8月1日 長野県立美術館
出品作品 絵画 21点
彫刻 2点
- 個展・団体展等
- 長野市風景画展
1月21日~31日 長野県立美術館
委嘱出品 碓田順彦

- 佐久平水彩画研究会
2月24日、5月12日、8月18日、11月17日 佐久市
講師 碓田順彦
- ちくま会展
3月7日～13日 ギャラリー82 市川孝子
- 第17回 アートエム絵画展
3月20日～26日 ギャラリー82
小林明子 松川勝男 水上さおり 峯村欣弘
横山優子 吉池仁美 西澤裕美子 平坂典子
吉原悦子 清水和明 深澤友紀子 宮下久仁
- 日本水彩支部会員展
4月18日～23日 ホクト文化ホール
参与出品 碓田順彦
会友出品 横山優子
- 峯村欣弘 絵画展
4月20日～25日 ギャラリー タカハシ 絵画30点
- 第76回 女流画家協会展
6月7日～13日 東京都美術館 市川孝子
- 第74回 北信美術展
6月22日～27日 長野県立美術館
無審査出品 碓田順彦 松川勝男
出品者 赤川雅俊 市川孝子 小池華子
小林明子 田中渉 水上さおり 峯村欣弘
横山優子 吉池仁美 高橋文夫 西澤裕美子
平坂典子 清水和明 深澤友紀子
- 第110回 日本水彩展
6月23日～30日 東京都美術館
参与出品 碓田順彦
会友出品 横山優子
- 第4回 峯村欣弘 絵画展
7月1日～31日 篠ノ井 喫茶アイ 絵画 11点出品
- 第75回 中信美術展
7月1日～9日 松本市美術館
やまぐちかずお 林 政人
- 北信美術会作品研究会
7月23日 安茂里公民館 講師 碓田順彦
- 第75回 長野県展
9月24日～10月1日 長野県立美術館
無審査出品 碓田順彦
出品者 市川孝子 田中渉 峯村欣弘
横山優子 高橋文夫
- NTT・OB展講評会
10月30日 トイゴ 講師 碓田順彦
- 金鳥展
11月11日～26日 信州高遠美術館 小林一夫
- せせらぎ美術協会展講評会
11月12日 ギャラリー82 講師 碓田順彦
- 北信美術会・写生会展講評会
11月21日 プラザ82 講師 碓田順彦
- 第17回 みゆき野風景画展講評会
11月23日 木島平村主催 審査長 碓田順彦

- 小林一夫 彫刻展
12月2日～10日 京都つばみ堂
- 令和5年 松川勝男 展
12月5日～25日 アートエム店内
(峯村欣弘 記)

石川支部 ISHIKAWA

- 支部活動
- 定例総会
4月23日 ののいちカレード
- 本展作品研究会
8月20日 インプレス
- 本展反省会
11月5日 野々市市交遊舎
- 一陽会 石川支部 WEB展覧会
12月13日～17日 石川県立美術館
本部より中村義孝運営委員を招聘し作品講評会
懇親会を開催

- 公募展
- 第78回 現代美術展
3月31日～4月17日
(洋画)金沢21世紀美術館
理事長・審査委員長出品 大場吉美
常任委員出品 竹田明男
委員出品 安田 淳
会員出品 柴山桂子 西山恭申 白井正浩
尾山隆夫 川村甚子 田方 勇

- (一般)
次賞 小島信子
北國賞 田村久美子
入選 阿部正子 大友史郎 木下 脩
中谷美和子 巻砂紀恵 丸山かはる
丸山政廣 山崎綾乃
- (彫刻)金沢21世紀美術館
会員出品 大鍛英治
- 第62回 小松美術展
5月 小松・サイエンスヒルズこまつ 安田 淳
- 野々市みんなのアート展
10月14日～22日 学びの杜カレード
竹田明男 西山恭申 尾山隆夫

- グループ展
- 花と緑ののいち椿まつり
3月18日～19日 野々市市文化会館フォルテ
竹田明男 西山恭申 尾山隆夫
- 伝えたいかたち～彫刻とドローイング vol.3
3月23日～28日 画廊・珈琲ギャラリー-Zaroff 渋谷
浜谷信彦
- 根上絵画協会新春展
3月26日～4月7日 福祉会館アートギャラリー
阿部正子 山崎綾乃

- 能美市作家協会N展
4月15日～23日 根上学習センター
阿部正子 田方 勇 山崎綾乃
- 第59回 こまつのみ・入札展
5月 小松・サイエンスヒルズこまつ 安田 淳
- 第79回 現代美術展 白山展
5月13日～28日 市民工房うるわし 木下 脩
- 第27回 日仏現代国際美術展(招待出品)
6月 六本木・国立新美術館 安田 淳
- 第79回 現代美術展 小松展(委員出品)
6月 小松・サイエンスヒルズこまつ 安田 淳
- 能美市絵画協会展
6月24日～7月2日 根上学習センター
阿部正子 田方 勇 山崎綾乃
- 第28回 七尾美術作家協会展
7月14日～17日 七尾美術館市民ギャラリー
巻砂紀恵
- 能美市作家協会展
7月18日～24日 根上学習センター
阿部正子 田方 勇 山崎綾乃
- 8+9 2023 さりげない平和を通してII
7月25日～30日 長崎県美術館 浜谷信彦
- 第8回 サムホール展「煌めき」
8月4日～21日 津幡町かつぎきロビー ギャラリー由
岩城和恵
- 第79回 現代美術展 能美展
8月10日～22日 九谷五彩館
阿部正子 田方 勇 山崎綾乃
- 根上絵画展
10月2日～12日 福祉会館アートギャラリー
阿部正子 山崎綾乃
- 大場吉美×齋藤久子×三井泰子
インスタレーション3人展
10月3日～15日 石川国際交流サロン
企画出品 大場吉美
- ピエンナーレいしかわ2023
10月26日～29日 北國新聞交流ホール 大場吉美
- 凜 展
10月31日～11月5日 金沢21世紀美術館 柴山桂子
- 金沢美大 引越しだよ! 全員集合
11月 金沢・金沢美術工芸大学旧校舎 安田 淳
- 2023 CAFネビュラ展
11月 埼玉県立近代美術館 安田 淳
- SALON DE 遊-日仏現代国際美術展小品展
11月 金沢・金澤町家 Gallery Muku 椋
安田 淳
- 能美市作家協会N大作展
11月18日～26日 根上学習センター
阿部正子 田方 勇 山崎綾乃
- 第63回 歳末美術展
11月25日～29日 金沢香林坊大和

- 大場吉美 竹田明男 安田 淳 柴山桂子
西山恭申 白井正浩 阿部正子 小島信子
田方 勇 巻砂紀恵 山崎綾乃
- 第59回歳末助け合い入札展
12月1日～3日 寺井地区公民館
阿部正子 田方 勇
- 第12回 野々市市美術文化協会展
12月3日～10日 学びの杜ののいちカレード
竹田明男 西山恭申 尾山隆夫
- 第28回 七尾美術作家協会チャリティー展
12月5日～8日 ギャラリーかわも 巻砂紀恵
(尾山隆夫 記)

茨城一陽会 IBARAKI

- 2023年活動報告
- 中村義孝 彫刻展 - 平和な眠り -
4月15日～5月15日
ワグナー・ナンドールアートギャラリー
(栃木県益子町)
- 第9回 ゲタ箱展
6月17日～6月30日
大田原市芸術文化研究所(栃木県大田原市)
中村義孝 他131名
- 第49回 MITO彫刻展
6月23日～7月2日
アートセンタータキタ(水戸市泉町)
小宅淑子 北沢努 鈴木しのぶ 六崎敏光
村山悦子 他2名
- 茨城の美術セレクション
7月11日～7月23日
茨城県つくば美術館(つくば市吾妻)
宇留野信章 館野 弘 他40名
- 北沢努 展 2023 森に棲む
9月27日～10月1日
アートスペース布布(つくば市春風台)
- 野外彫刻洗浄体験
10月22日
東海文化センター駐車場内(那珂郡東海村)
飯田政子 北沢 努 鈴木しのぶ 中村義孝
村山悦子 他3名
- 研究発表『パルテノン・フリーズ浮彫復元の試み』
研究発表会「古代ギリシャ彫刻と彩色」
11月18日 早稲田大学戸山キャンパス31号館201
中村義孝
- 第28回 うしく現代美術展
11月19日～12月3日
牛久市中央生涯学習センター(牛久市柏田町)
中村義孝 松本淳志 他56名
- 慈しみの眼-所蔵作品展
11月29日～12月27日
常陽藝文センター(水戸市三の丸)
北沢努 他12名

●YEAR-END EXHIBITION OF MINI・SCULPTURES
12月7日～12月20日
ギャラリーせいほう(東京都中央区銀座)
中村義孝 他155名

●温故知新II
12月3日～12月9日
東海ステーションギャラリー(那珂郡東海村)
北沢 努 他5名

●ちょっと小さな展覧会
12月13日～12月30日
ギャラリーサザ(ひたちなか市共栄町)
宇留野信章 北沢 努 中村義孝 他99名

●第49回 チャリティー著名人色紙・作品展
1月2日～1月3日
水戸京成百貨店催事場(水戸市泉町)
北沢 努 六崎敏光 他143名

●第13回 現代茨城作家美術展
1月20日～2月12日 茨城県近代美術館
宇留野信章 館野 弘 磯山芳男
中村義孝 六崎敏光 他95名

●先生たちの美術展10
1月21日～2月25日
坂東郷土館ミュージズ(坂東市山)
飯田政子 他22名

●第36回 アートロード展
2月4日～2月17日
東海ステーションギャラリー(那珂郡東海村)
北沢 努 他57名

●第31回 土なかま彫塑展
3月10日～3月16日
東海ステーションギャラリー(那珂郡東海村)
北沢 努 葛迫大祐 鈴木しのぶ
村山悦子 谷津喜美代 他10名

●第18回 KAJIMA彫刻コンクール入選マケット展
3月13日～4月5日 鹿島KIビル アトリウム
北沢 努 他35名

●彫刻とドローイング vol.4～伝えたいかたち～
一陽会の7作家
3月28日～4月2日
画廊珈琲zaroff(東京都渋谷区初台)
北沢 努 他6名
(北沢 努 記)

新潟一陽会 NIIGATA

◇2023(令和5年度)
■活動報告
●特別講座 春(風景画)
3月13日～4月25日
主催 加茂市公民館28名 講師 千野清和
●新潟一陽会
6月12日～18日 県民会館 市橋哲夫(他11名)

●特別講座 夏(静物画)
6月12日～7月24日
主催 加茂市公民館28名 講師 千野清和
●企画展-時の世界-
7月1日～7月17日 中之口先人館ギャラリー
長谷川清晴

●日本美術家連盟 信越地区会員展
7月10日～18日 県民会館 市橋哲夫 千野清和
●長谷川清晴 展-時の世界-
8月26日～9月24日 弥彦の丘美術館
●第19回 魚沼市美術展
9月8日～11日 堀之内体育館
審査員出品 長谷川清晴

●今展
9月15日～18日 産業文化会館
千野清和(パフォーマンスで風景画を描く)
●第69回 一陽展
10月4日～16日 国立新美術館
市橋哲夫(他12名)

●第66回 柏崎市美術展覧会
10月5日～9日 審査員出品 長谷川清晴
●特別講座 秋(風景・静物画)
10月9日～11月27日
主催 加茂市公民館38名 講師 千野清和

●第21回 弥彦描く
10月14日～25日 審査員出品 長谷川清晴
●第55回 市展
11月3日～7日 加茂体育館 千野清和

●にいがたアートサーカス展
11月3日～9日 市橋哲夫 若木弘美
●第51回 新潟県美術家連盟
11月11日～30日 県民会館
木村保夫 千野清和 長谷川清晴 渡邊順子
(会員賞選考委員長 長谷川清晴)

●第20回記念 長岡市文化協会洋画部会員展
11月22日～26日 木村保夫
●第2回 加茂文化協会展
11月22日～12月6日 千野清和 6点展示

●第36回 新春美術展
2024年1月25日～29日 加茂文化会館 千野清和
(千野清和 記)

●第20回記念 長岡市文化協会洋画部会員展
11月22日～26日 木村保夫
●第2回 加茂文化協会展
11月22日～12月6日 千野清和 6点展示

●第36回 新春美術展
2024年1月25日～29日 加茂文化会館 千野清和
(千野清和 記)

富山一陽会 TOYAMA

■活動報告
●美術と作品研究会
2023年 1月、3月、5月、6月、7月、8月、10月、11月
◇2023年2月
●富山市美術作家連合展
富山市民プラザアートギャラリー
萩中幸雄 榊田律子 古田恵子 山本正臣
寺脇圭子 河原憲行 秋本美智子 富岡博子
長永揚子 田村昭子 板倉孝久

◇3月
●砺波市美術協会 会員展
砺波市美術館 山本文郎

◇4月
●富山県洋画連盟富山地区会員 第九弾
内なる風景展
富山県民会館ギャラリーC・D
萩中幸雄 榊田律子 古田恵子 武田清子
山本正臣 寺脇圭子 河原憲行 藤木良一
秋本美智子 長永揚子 田村昭子 板倉孝久

●国宝高岡山瑞龍寺 大吉田誠夫乃助 アフリカ展
国宝高岡山瑞龍寺大茶室 吉田誠夫
●ぴーすあけぼの アフリカ展
小矢部ぴーすあけぼの 大吉田誠夫乃助

●上市美術会巡回展
富山信金ギャラリー 黒崎 博
◇5月
●滑川市美術協会展
滑川市博物館 笹山満義

●第69回 全日肖像展
東京都美術館 入選 才田峰風
●上市美術会巡回展
富山銀行ギャラリー 黒崎 博

◇6月
●第78回 富山県美術展
富山県民会館
審査員出品 萩中幸雄
招待出品 榊田律子 高橋久仁子
県展大賞 寺脇圭子
県展賞 古田恵子
佳作 武田清子 黒崎 博
入選 山本文郎 山本正臣 河原憲行
藤木良一 長永揚子 富岡博子 田村昭子
秋本美智子 才田峰風 大吉田誠夫乃助
板倉孝久 黒田真理子

●第37回 富山市洋画作家連盟展
富山県民会館美術館
萩中幸雄 榊田律子 古田恵子 山本正臣
寺脇圭子 河原憲行 藤木良一 秋本美智子
長永揚子 田村昭子 板倉孝久

●上市美術会巡回展
北陸銀行上市支店 黒崎 博
◇7月
●富山一陽会 第68回 一陽展出品事前研修会
富山県民会館美術館 大作23名出品
講評 濱田 清 先生 大場吉美 先生

●ART/X/TOYAMA in富山
榊田律子 古田恵子
●富山県洋画連盟新川地区会員展
上市町カミール 笹山満義 黒崎 博

●七夕会作品展
アートギャラリー栄 山本正臣



富山一陽会 第68回 一陽展出品事前研修会

●UU展
富山県民会館 黒崎 博
◇8月
●グレートリープ大賞展
世田谷美術館
優秀賞 榊田律子
奨励賞 高橋久仁子

●グレートリープ大賞展 巡回展
菱川師宣記念館
優秀賞 榊田律子
奨励賞 高橋久仁子

●亀齢堂100周年記念サムホール展
笹山満義 榊田律子 古田恵子

●第37回 上市美術展
北アルプス文化センター
町展大賞 黒崎 博
町展賞 才田峰風

◇9月
●新萩の会
富山県民会館ギャラリーB
賛助出品 萩中幸雄
山本正臣 秋本美智子 長永揚子 田村昭子

●第19回 富山市美術展2023
富山市民プラザ
招待出品 萩中幸雄 榊田律子
入選 河原憲行 秋本美智子 富岡博子
長永揚子 板倉孝久

●地域の作家展
アートギャラリー栄 武田清子
●上市美術会展
上市町カミール 黒崎 博

●上市美術会巡回展
富山信金ギャラリー 黒崎 博
●国際美術キャンプ派遣
ハンガリー アバードシャローク 古田恵子

◇10月
●野萩の会
富山県民会館ギャラリーB
賛助出品 萩中幸雄
寺脇圭子 黒崎 博 藤木良一
板倉孝久 脇坂 勝

- フランドル会展
富山県民会館美術館A
武田清子 河原憲行 長永揚子
- 上市文化展
北アルプス文化センター 黒崎 博
- 上市美術会巡回展
上市総合病院 黒崎 博
- ◇11月
- 富山県美術連合会 大作自選展 美のシンフォニー
富山県美術館TADギャラリー 萩中幸雄
- 第10回 飯田弥生賞展
飯田弥生美術館ギャラリー 美術鑑賞 高橋久仁子
- 越中アートフェスタ
富山県民会館
奨励賞 武田清子
佳作 大吉田誠夫乃助 才田峰風 丸山敦子
入選 山本正臣 河原憲行 富岡博子
- 砺波市美術展
市展賞 大吉田誠夫乃助
- 第72回 富山県芸術祭美術連合展
富山県民会館
萩中幸雄 笹山満義 榊田律子 古田恵子
丸山敦子 武田清子 高橋久仁子 山本正臣
寺脇圭子 黒崎 博 河原憲行 藤木良一
秋本美智子 長永揚子 田村昭子 才田峰風
板倉孝久
- 富山市民大学文化祭
富山市民プラザアートギャラリー
賛助出品 古田恵子
秋本美智子 長永揚子 田村昭子
- 滑川市美術協会小品展
ショッピングセンターエール店内 笹山満義
- 上市町高齢者作品展
カミール 黒崎 博
- ◇12月
- 河原憲行 作品展
富山県民会館ギャラリーB
- ロビー展 大吉田誠夫乃助 アフリカ展
北陸銀行砺波支店
- ◇2024年2月
- 第34回 富山市美術作家連合会展
富山市民プラザ
萩中幸雄 榊田律子 古田恵子 武田清子
山本正臣 寺脇圭子 河原憲行 秋本美智子
長永揚子 藤木良一 富岡博子 板倉孝久
- 古田恵子 展 無に立ち帰れば
富山県民会館ギャラリーC 古田恵子
- ◇3月
- それぞれのカタチ おんな4世代展
富山県民会館ギャラリーB 才田峰風
(古田恵子 記)

- | 福井一陽会 | FUKUI |
|--|---|
| ■活動報告 | |
| ●福井一陽会 役員会
2023年4月16日 | 福井市体育館(会議室) |
| ●福井一陽会 定例総会
2023年5月13日 | 福井放送(会議室) |
| ●第1回 研究会
2023年6月24日 | 福井市きらら館(会議室) |
| ●第2回 研究会
2023年7月22日 | カルチャーメイツ春江 |
| ●福井一陽会 役員会
2023年7月29日 | カルチャーメイツ春江 |
| ●第3回 研究会
2023年7月29日 | カルチャーメイツ春江 |
| ●福井一陽会役員会
2023年10月28日 | カルチャーメイツ春江 |
| ●第4回 研究会
2023年10月28日 | カルチャーメイツ春江 |
| ●福井一陽会懇親会
2023年11月25日 | トラットリアベーネ |
| ●福井一陽会 役員会
2024年3月2日 | カルチャーメイツ春江 |
| ■個展 | |
| ●牧田聖代 小品展
2023年5月24日～6月17日
ギャラリーアダージョ(坂井市) | 牧田聖代 |
| ●松原照代 個展
2023年7月1日～31日 | ギャラリーサライ(福井市)
松原照代 |
| ■公募展 | |
| ●第15回 現代童画会 福井展
2023年3月31日～4月2日
福井市美術館(福井市)
無鑑査出品 | 松村典子 |
| ●第36回 市美展ふくい
2023年5月19日～28日 | 福井市美術館(福井市)
絵画造形部門
審査員・審査員出 |
| | 品佐川文字 西藤節子 畑 透仁
無鑑査出品 石田孝子 村田宏人
福井市議会議長賞(無鑑査推挙) 松村典子
奨励賞 吉川暁遊
入選 横山純子 |
| ●第18回 越前市民美術展
2023年9月9日～17日 | まさかりどんの館(越前市)
無鑑査出品 井上真知子 |
| ●第69回 一陽展
2023年10月4日～16日 | 国立新美術館
出品者15名 |

- 第74回 福井県総合美術展
2023年11月1日～15日
福井県立美術館(福井市)
絵画造形部門
無鑑査会員出品 村田宏人
知事賞(無鑑査会員推挙) 西藤節子
県美展賞 松村典子
審査員賞 牧田聖代
入選 井上真知子 増澤恵美子
横山純子 吉川暁遊
- 第10回記念 飯田弥生賞展
2023年11月25日～12月1日
飯田弥生美術館(東京都千代田区)
入選 清水成子 増澤恵美子
- グループ展他
- ギャラリー「窓」万葉美術展
2023年4月1日～9日
万葉菊花園ギャラリー(越前市) 井上真知子
- T-gallery展
2023年4月3日～15日
塚崎誠文堂 T-gallery(越前市) 松原照代
- 第38回 究展
2023年4月5日～9日 福井県立美術館(福井市)
佐川文字
- 第46回 あおい絵画展
2023年4月19日～23日
ふるさとギャラリー叔羅(越前市) 井上真知子
- 第45回 カカ斜展
2023年4月19日～23日
福井県立美術館(福井市) 西藤節子
- 佐川文字・佐川晃司 ふたり展
2023年4月29日～5月15日
KOUBA GALLERY(福井市) 佐川文字
- 彩朋会展
2023年6月7日～11日
福井商工会議所(福井市) 石田孝子
- 森の仲間たち水彩画展
2023年9月7日～10日 まなべの館(鯖江市)
嵐川真智子 松原照代
- 第42回 福井県市町文協選抜美術展
2023年9月8日～10日 なびあす(三方郡美浜町)
松村典子
- 華陽会グループ展
2023年9月28日～10月1日
福井県立美術館(福井市) 横山純子
- 第19回 丹南芸術家協会展
2023年10月3日～8日
ふるさとギャラリー叔羅(越前市) 井上真知子
- 越前源氏物語54人の物語
2023年10月5日～15日 いまだて芸術館(越前市)
井上真知子 松原照代 松村典子 横山純子

- あわら市本荘公民館祭
2023年10月21日～22日 本荘公民館(あわら市)
清水成子
- 第44回 細呂木ふれあい祭
2023年10月22日 細呂木公民館(あわら市)
吉川暁遊
- 第62回 ぺんぺん会グループ展
2023年10月25日～29日 まなべの館(鯖江市)
佐川文字 井上真知子 松原照代
松村典子 横山純子
- 第20回 あわら市民文化祭
2023年10月28日～29日
あわら市中央公民館(あわら市)
清水成子 増澤恵美子 吉川暁遊
- 四人展
2023年11月7日～12日
ギャラリー祇園小舎(京都市) 松原照代
- 第20回 湯のまち公民館まつり
2023年11月11日～12日
あわら湯のまち公民館(あわら市)
清水成子 増澤恵美子 吉川暁遊
- 第60回記念 福井一陽展
2023年11月23日～26日
福井県立美術館(福井市)
嵐川真智子 石田孝子 井上真知子 佐川文字
清水成子 西藤節子 畑 透仁 武鎧恭子
真木康至 牧田聖代 増澤恵美子 松原照代
松村典子 村田宏人 横山国男 横山純子
吉川暁遊



- 越前町文協 第8回 美術展
2024年3月1日～3日 織田メルシ(丹生郡越前町)
松村典子
- あわら湯のまちギャラリー展
2024年3月15日～27日
あわら湯のまち公民館(あわら市)
清水成子 増澤恵美子 吉川暁遊
(西藤節子 記)

青森一陽会 AOMORI

- ◇7月
●青森一陽会 第45回展
青森市民美術展示館(青森市) 一人3~5点出品
奥田君子 北川三千枝 対馬久世喜
土岐千佳子 福井和子 逢坂清悦



青森一陽会は昭和54年12月、棟方寅雄先生を中心に一陽展出品者10数名で結成し、毎年、青森市を中心に展覧会を開催してきた。大作だけでなく小品展も30回を超えた。しかし、10数名いた出品者も現在は1名となり、支部としての役割を担うことができず、来年度からは休会とする。出品者を増やすことで再会をめざしたい。

- ◇10月
●第64回 青森県美術展覧会
東奥日報新町ビル New'sホール
賛助出品 逢坂清悦
●第52回 教美展
東奥日報新町ビル New'sホール
土岐千佳子 逢坂清悦
(逢坂清悦 記)

山梨グループ YAMANASHI

- 活動報告
●山梨美術協会展
4月 三井正人 遠藤優綾
●吉田光雄 個展
7月 吉田光雄
●山梨県民文化祭
11月 三井正人 吉田光雄
●山梨の作家たち
1月 三井正人 吉田光雄
●山梨美術協会 会員展
2月 三井正人 遠藤優綾
(吉田光雄 記)

岡山グループ OKAYAMA

- 活動報告
■グループ展
●『陽のあたる岡 第12回展』
2023年5月9日~14日
天神山文化プラザ第3、第4展示室
特別集中展示 横山瑞歩
■個展
●『70代の新たな一歩 美しい驚き 泉谷淑夫 展』
2023年1月18日~23日
高島屋大阪店6階美術画廊
●回顧展『泉谷淑夫 羊のいる世界 羊のいない世界』
2023年5月30日~6月4日
天神山文化プラザ第3、第4展示室
圓明山法華寺日蓮降誕800年記念天井画公開



- 『時空を超えて - 至芸と神秘 - 泉谷淑夫の世界』
2023年11月22日~27日 平塚・元麻布ギャラリー
●『安富洋貴 鉛筆画展 ~透き通る静寂~』
2023年9月13日~25日 高島屋大阪店6階 NEXT
●『安富洋貴展』
2023年10月2日~14日 東邦アート
(泉谷淑夫 記)

彫刻部研修会報告

彫刻部運営委員 中村 義孝 彫刻部委員 土井 敬真・安田 操



講師 小泉 晋弥氏

日時 2023年12月9日(土) 15:00~16:30
会場 国立新美術館3F研修室A・Bにて
講演 「モダニズムとポストモダニズム、そして時代を超える彫刻」
講師 茨城県天心記念五浦美術館長、愛知県立芸術大学美術学部、茨城大学、
東京藝術大学美術学部非常勤講師 小泉 晋弥氏

1999年より始まった彫刻部の研修会は2019年までの期間、毎年12月に開催されてきました。研修会後の忘年会も合わせて彫刻部の恒例行事としてすっかり定着してきたこの研修会も、2020年からの新型コロナウイルスの影響を受けて、3年間は対面で実施することはできませんでした。しかし、この間もなんとかして研修会を実施できないものかと思案し、コロナ禍で急速に利用が広がったWeb会議ツールを用いてのオンライン研修会の実施を試みました。まず2022年6月4日に三井正人氏による「彫刻と言葉」を試験的に実施し、その後2023年3月25日に松井勅尚氏による「境をまぎらかす」、2023年5月20日に前嶋英輝による「アニメ制作と彫刻の量感表現」と、彫刻部委員のメンバーによる3回の講演をZoomで実施しました。通信環境の影響や、まだ慣れないツールの利用等の課題はありましたが、いずれの回も20名を超える参加者があり、今後も引き続きオンラインによる研修会の実施を検討していきたいと考えております。

実に4年ぶりの対面での実施となった2023年度の彫刻部研修会は、12月9日に講師として茨城県天心記念五浦美術館長である小泉晋弥先生をお招きして講演をしていただきました。久しぶりの対面での実施となった今回の研修会には彫刻部のメンバーだけでなく、絵画部、また一陽会に所属しない一般の参加者も多数参加いただき、30名を超える研修会となりました。

今回の講演内容は「モダニズムとポストモダニズム、そして時代を超える彫刻」というテーマで、小泉先生が東京藝術大学で非常勤講師として講義されている内容を凝縮して講演いただきました。ロダンやブランクシー、ジャコメッティ、ファッツィーニ、若林奮といった作家たちを例にしながら、彼らの作品が表現しようとしたことを作家自身の言葉や作品から解きほぐし、モダニズムとポストモダニズムの思想的意味と、非モダニズムのとらえ方についてと盛りだくさんな内容の講演でした。

ロダンのアッサンブラージュや、空間が彫刻そのものというジャコメッティと雰囲気彫刻にしているという若林奮のエピソードにより、ポストモダニズム以降の彫刻の表現についての解釈だけでなく、お手本→モデル→表現といった一連の制作活動についても過去(icon)→現在(index)→未来(symbol)とパースの記号論を介してのお話が強く印象に残りました。

今後もオンラインによる開催も並行しながら、研修会をより充実したものにできればと思っております。



『変わらない美術活動を』

絵画部運営委員 **大場 吉美**

OBA Yoshimi



八年間を、ありがとうございました。

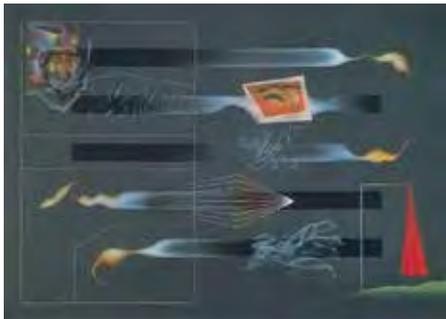
400名余りの構成員や関係者からの多様な要望に如何に伝えていけるかが、不安でした。美術公募団体の事務所の役割は、そのことと思います。個性豊かな美術家の要望は、人数分あります。考えが違って当たり前です。一陽会は、70年前に創設された理念があり、個々の美的価値観、表現の多様性、未完の荒削りな表現を推奨するなど、美的挑戦を大切にすると高らかに唱っています。

その事務所の役割は、多様で柔軟かい対応が重要だと心掛けましたが、困難も伴い、意見の相違として感情的になったこともあります。今では、全て過ぎ去ったこととして、柔らかくお許し頂ければ嬉しく思います。

令和6年元旦に発生した能登半島地震は、人間の知能の及ばない出来事です。人の力、知識や知恵の、なんと非力なことかと、思い知らされました。被災された多くの方々に、心からお見舞い申し上げます。

皆様は如何でしょうか。ただ、私達非力ですが、美術活動の集団として、美術の持つ力、役割を考えながら、前に進みたいと思います。自分にも、人々にも、元気をつくり、勇気を示すことが美術の役割のように思います。

一陽会の仲間同士が話し合い、意見交換をし、主張をしながら、世に問う自分の美意識を高めていきたいと思いません。その姿勢こそが、人々に活力を提案することになると思います。是非、美術仲間として、多様性こそ尊重しなければならぬと、一陽会創立の大先輩達のように、意気盛んな情熱を持ちたいと、心しています。70年の歴史を噛みしめながら、展覧会場での、それぞれの力作の競演を期待し、地震被害の少ないことに、感謝して、制作中です。



第41回一陽展(1995)
「コレクション・5人の花嫁」
(石川県立美術館蔵)



第47回一陽展(2001)
「コレクション・囲まれた男」
(石川県立美術館蔵)



第53回一陽展(2007)
「雲をたべた女神」



第54回一陽展(2008)
「もとめるもの」



第59回一陽展(2013)
「あるゆめ」



第68回一陽展(2022)
「黒い雲とおじさん天使」